

令和5年度第3回「北海道オホーツク地域等公共交通活性化協議会」議事録

日時	令和5年(2023年)12月25日(月) 13:30~14:45
場所	北見市民会館(北見市常盤町2丁目1-10)
出席者	別添名簿のとおり
議事	1 会長挨拶 開会にあたって、会長から挨拶。
	2 冒頭説明 事務局長から冒頭説明。 ・ 定足数の充足により会議が成立 ・ 議事録は後日公表予定
	3 議事(1) 報告事項「令和5年度施策・事業の推進状況」 資料1-1、1-2、1-3、1-4に基づき、事務局員から説明。 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
	4 議事(2) 協議事項「令和6年度事業及び予算のたたき台」 資料2-1、2-2、2-3に基づき、事務局員から説明。 ・ 事業予算合計1,500千円(1団体あたり80千円) 【質疑・意見】 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
	5 その他 各交通事業者から「①運行を確保するために必要となる人員の採用状況」「②採用を確保していくために法定協議会に求めること」について意見を聴取。 ■ 斜里バス(当日欠席、事務局にて代読) ①・ 6月の路線バス体験就職説明会で2名の採用が決まった。 ・ ハローワークやネットでの求人募集は応募がない。 ・ 運転手の平均年齢53歳、会社全体で高齢化。 ・ 新卒者の確保に努めているが地元への就職率も低い。 ・ 自治体と協力し新卒者の確保、移住者対策による人材確保に取り組んでいきたい。 ②・ 6月の就職説明会では2名の採用に至り感謝。 ・ 次回は土日もしくは日曜開催を希望。 ・ 家族で就職説明会に参加いただき、家族同乗での乗車体験。 ・ より多くの方が参加し、公共交通の重要性を理解していただけるよう、継続的な就職説明会の開催を要望。 ■ 阿寒バス ①・ 6つある営業所で2、3名ずつ足りないため、計20名ほど不足。 ・ 動画を作成し、Youtubeに投稿。就職相談会等でも流している。 ・ 6月のオホーツクの体験就職説明会では採用なし。

- ・ 11月の釧路・根室での就職説明会では83名参加し、羅臼で2名、釧路で1名採用予定。
- ②・ 移住フェア等での人口増によりバス運転手の確保に繋げてほしい。

■ 網走バス

- ①・ 今年度入社予定は9名。例年になく多い。
 - ・ 求人広告によるもので、出身は地元2名、札幌2名、本州5名。
 - ・ 会社独自で社宅家賃（3年間2/3会社負担）、赴任費、面接の宿泊費について補助。
- ②・ 採用コストについての援助の拡充を期待。
 - ・ 各自治体で補助制度にまだばらつきがある。
 - ・ 今は募集に力を入れているが、最終的には定着してもらう必要がある。
 - ・ 待遇改善のあったタクシー運転手さんと比較すると、賃金が低くみえる。最低賃金は3年間で100円（月額換算17000円）上がったが、会社としては3年間で月額5300円しか賃上げができなかった。
 - ・ 企業努力もあり、施策に盛り込むのは難しいかもしれないが、運転手確保の次の段階としてバス事業者自体の収益改善についてもご理解いただきたい。

■ 北海道北見バス

- ①・ 7月に12%減便。もとに戻すには14名程度不足。
 - ・ 今後15年、70歳満了、1人も採用できなかったと仮定すると、2/3（80名）ほどいなくなる。
 - ・ 今年度は14名採用。道外からが増えている。
- ②・ 春、秋で2回開催など、運転体験会の回数増を希望。
 - ・ 6月の運転体験会では2名内定（1名辞退）。全体で30名程度集まって3～4人採用と、非常に高い割合で採用に繋がっている。2種免許がなくても運転してもらえるのは裾野が広がってよい。
 - ・ 直接「思い」を伝えるために、道や自治体が参加する移住フェアに都度選定した数社、バス事業者を同席させてもらいたい。
 - ・ 当社が参加する東京など管外でのイベントの際はオホーツクの魅力を発信していきたいので、PR動画等あれば使用したい。
 - ・ 住宅を提供していただきたい。バス会社単独ではなく、「オホーツク」として取り組んでいただきたい。美幌では住宅支援制度、北見では条例改正に向けて取組中。道営住宅も使用させてもらいたい。

■ 北紋バス

- ①・ 4月から12月にかけて、2名採用。
 - ・ 4月に一部減便。4、5名程度不足。
 - ・ 来年度は2名が定年退職の予定。厳しい状況が続く。

	<p>②・ 6月の説明会参加できなかった。今後参加していきたいので、継続してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層の確保がきびしい状況。 ・ 求人広告に対して、本州の人からの反応が増えている。 ・ 移住施策について、移住してからの生活（医療・教育等）のイメージを示せていない。協議会、自治体とも協力して魅力的にみせていければ。 <p>■ JR</p> <p>①・ 採用人員についてはここでお話できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転手、保守、運行管理等、多様な職種が運行には必要だが、近年若年層を中心に離職者が増えている。必要採用数に至っていない。経営課題となっている。 <p>②・ 運転手確保の説明会の際に、JRにもPRする機会をいただきたい。</p> <p>参考資料に基づき、北海道北見運輸支局から情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点支援地方交付金についての調査を市町村に実施中。調査協力並びに交通事業者への補助の検討を。 <p>【質疑・意見】 <input type="checkbox"/>あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
	<p>6 全体総括</p> <p>■ 北見工業大学・高橋教授</p> <p>もう少し協議会の活性化が必要。協議会で何ができるのか、また、今日の交通事業者の要望が多かったのは、自治体の交通以外の施策とどう絡めていくのか。まずは事業者と自治体の「共創」が必要。困っている事業者とどうやって自治体として連携できるか、既に真剣に取り組んでいただいているとは思いますがさらにもう一步踏み込んで考えていただきたい。</p> <p>先日発表された人口推計では、北海道は2050年に385万人程度まで人口が減る予想。およそ40～50%各自治体から人が減ること。今がまちづくりの分岐点となってくるので、まずは移動の手段について見直してもらいたい。</p> <p>感想としては3点。</p> <p>1点目としては、いまはどこもドライバー不足で、「2024年問題」とフレーズがついている。「2024年問題」と呼ばれて、注目が集まっている来年がポイントとなるので、2024年のうちに状況改善の見通しをつけておかないといけない。</p> <p>網走バスからも意見があったが、募集も大事だが定着が大事。公営住宅の貸与の話など、いますぐどうこう、という話ではできないが、今日情報共有ができた、ということが1番のポイントなので、それをふまえて各自治体等で取り組んでいただきたい。</p> <p>2点目としては、法定協議会の意義を再度考えていく必要があるという</p>

	<p>こと。自治体を結ぶ幹線の確保というのが大きなポイントとなる。都市間移動については、道にしっかりリーダーシップをとってほしい。データの分析についてはバス事業者だけでなく自治体や道などでも取り組んで議論してほしい。大学としても協力できることがあるかもしれない。幹線を維持していく。そのための情報提供であり、データ提供という考え方。</p> <p>3点目としては、需要を増やすだけの段階から、ドライバー不足で需要と供給のバランスをとっていく段階にあるということ。また、さらに人口が減って、幹線からフィーダーといった全体のネットワークをしっかりと考えていく必要がある。</p> <p>「法定協議会としての役割」「自治体ごとのまちづくり」「事業者の人手不足をどのように補っていくか」この3点について共創させていかないと、この地域は人口減の中で移動手段を確保していくのが難しくなるので、この協議会をうまく使って議論を進めていっていただきたい。</p> <p>【質疑・意見】 <input type="checkbox"/>あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
8	<p>会長まとめ</p> <p>■ 会長</p> <p>この3月に計画を策定して、今回が3回目の会議。</p> <p>今後も毎年度目標達成状況を把握するため、継続的にモニタリングを実施していくこととなる。同時に、PDCAサイクルをまわしながら進捗を管理、運用していくが、構成員との協力が不可欠であるため、施策・事業の横展開、認識の共通化を図りながら、引き続き進めてまいる。</p>

以上